



新入生へ

図書館へ行ってみよう

附属図書館長 前原 潤

新入生の皆さん、入学おめでとう。受験勉強から解放され、これから始まる大学生活に胸を躍らせていることでしょうか。私は、大学入学当時の、皆さんと同じ頃の、わくわくした気持ちを今でも覚えています。誰に聞いても大学時代は特に印象に残る楽しく充実した時期であったといいます。

これからの大学生活で、皆さんは、授業科目の選択をはじめ、ほとんどすべてのことを自分で選択し決めていくことになります。もちろん指導教官に相談することはできます。今後の4年間でどのように過ごすかで、卒業のときには大きな違いが生じます。「若い人に青春はもったいない」¹⁾ などと思われないよう、充実した大学生活を送るために、附属図書館を上手に利用し、たくさんの本を読むことを薦めます。

■情報ラウンジ

では、附属図書館をのぞいてみましょう。まず、琉球大学附属図書館には、初代学長の志喜屋孝信博士の功績をたたえて、志喜屋記念図書館²⁾ という呼称があることを覚えてください。

図書館前広場から、図書館の正面階段を上ると、途中に「学而不厭」という4文字が刻まれた碑があります。これは、湯川秀樹博士が1963年に琉球大学を訪れたとき書いたものをもとに、本学の安次富長昭教授(現名誉教授)がレイアウトしたものです。湯川博士が書いたオリジナルの書は、もちろん大切に保管されています。「学而不厭」というのは、論語の述而篇に出てくる言葉で、「学んでも学んでも決して飽きることはない」という意味です。

階段を上って自動ドアを通り、回転バーを押して図書



(上) 附属図書館本館正面玄関。ここから入ると、2階サービスカウンターの前に出る。玄関前には、「学而不厭」の碑がかかげられている(右)。



館の中に入ります。そこは図書館の2階です。ここで入り口を背にして立った状態をスタート(の状態)と呼ぶことにします。この状態で、右側にカウンター、右前方には奥へ続く廊下、正面には階段、左側に閲覧室、左すぐ横にコピー機が置かれているのが見えます。スタートの状態から右に90度向きを変えます。すると、カウンターは左前方になります。ここは図書の借り出しや返却をするところ。そして、向かいには沖縄関係の開架資料室が見えます。

右側は、去年から新しく設けられた情報ラウンジです。

目次

新入生へ：図書館へ行ってみよう(前原潤).....	1	2002年度貴重書展「史料が語る琉球」.....	10
新入生に贈るきらめき・ひらめきの一冊(島袋伸三ほか).....	4	2003年の電子ジャーナルサービス.....	11
教養図書コーナーを開設しました(能勢明雄).....	8	図書館システムの更新について.....	11
あなたにすすめる教養図書(宜保清一).....	9	お知らせ.....	12



上から、2階サービスカウンター、2階新着雑誌室、3階留学生コーナー。



そこには、一番手前に「教養図書コーナー」があります。皆さんに、教養を高めるため良い本をたくさん読んでもらおうという趣旨で設置されたものです。ここに並べる教養図書は2年間隔くらいで見直していく予定です。今後、教養図書をもとにした、小論文コンクールを行うことも計画しています。情報ラウンジには、他に新着雑誌や新着図書、その日の新聞が備えられています。また、数台のコンピュータが設置されていて、図書の検索をしたり、図書館のホームページを見たりすることができます。ぜひ試してみてください。

スタートに戻って、左の方に行ってみましょう。まず広い閲覧場所があります。その左側には参考図書（主に辞書類）の書架があり、右側奥の方は新着雑誌、アジア資料、アメリカ研究図書が並んでいます。ここの書架の後方にも閲覧場所が作られています。静かで、調べ物をしたり、レポートを書いたりするのに最適な場所です。周りが勉強している人ばかりなので雰囲気もいいです。

スタートに戻って、右前方の廊下を進んで行きますと突き当たりが雑誌の書庫です。ここでは書架が上下2層になって設置されています。

■留学生コーナー

では、またスタートに戻り、正面の階段を上って3階に行きます。上りきったところで右を向くとたくさんのテレビが設置されているのが目に入ります。留学生コーナーです。ここでは海外の衛星放送が受信できます。多くの留学生が自国の放送を見に来ます。また、美術全集

や外国語の新聞も置いてあります。

その右側が、一般図書となっています。教育、労働、経済、歴史、心理、哲学などの図書が、入ってすぐ左側に、理、工、農、芸術、言語、文学などの図書が右手の奥の書架に並んでいます。授業計画表に挙げてある参考図書も多分ここで見ることになるはずですが、どれでも自由に手に取って眺めてみてください。見終わったら、借り出すのでなければ、元の場所に戻すことを忘れずに。ここでも手前と奥の方に快適な閲覧場所があります（私が学生だったら、きっと毎日の空き時間の大半はこの奥の閲覧場所にいたでしょう。とにかく落ち着いた快適な所なのです）。

留学生コーナーに向かって左側にも一般図書があり閲覧場所があります。ここには一般図書のほかに、国際資料も置いてあります。3階への階段を上りきったところで左の方に行くと、和図書の書庫があります。ここは2階の雑誌書庫の真上にあたる部分です。ここも散策して、どこにどんな本があるか、頭に入れておきましょう。例えば、「学而不厭」という言葉が論語の述而篇にあるというのは、ここで調べることができます³⁾。

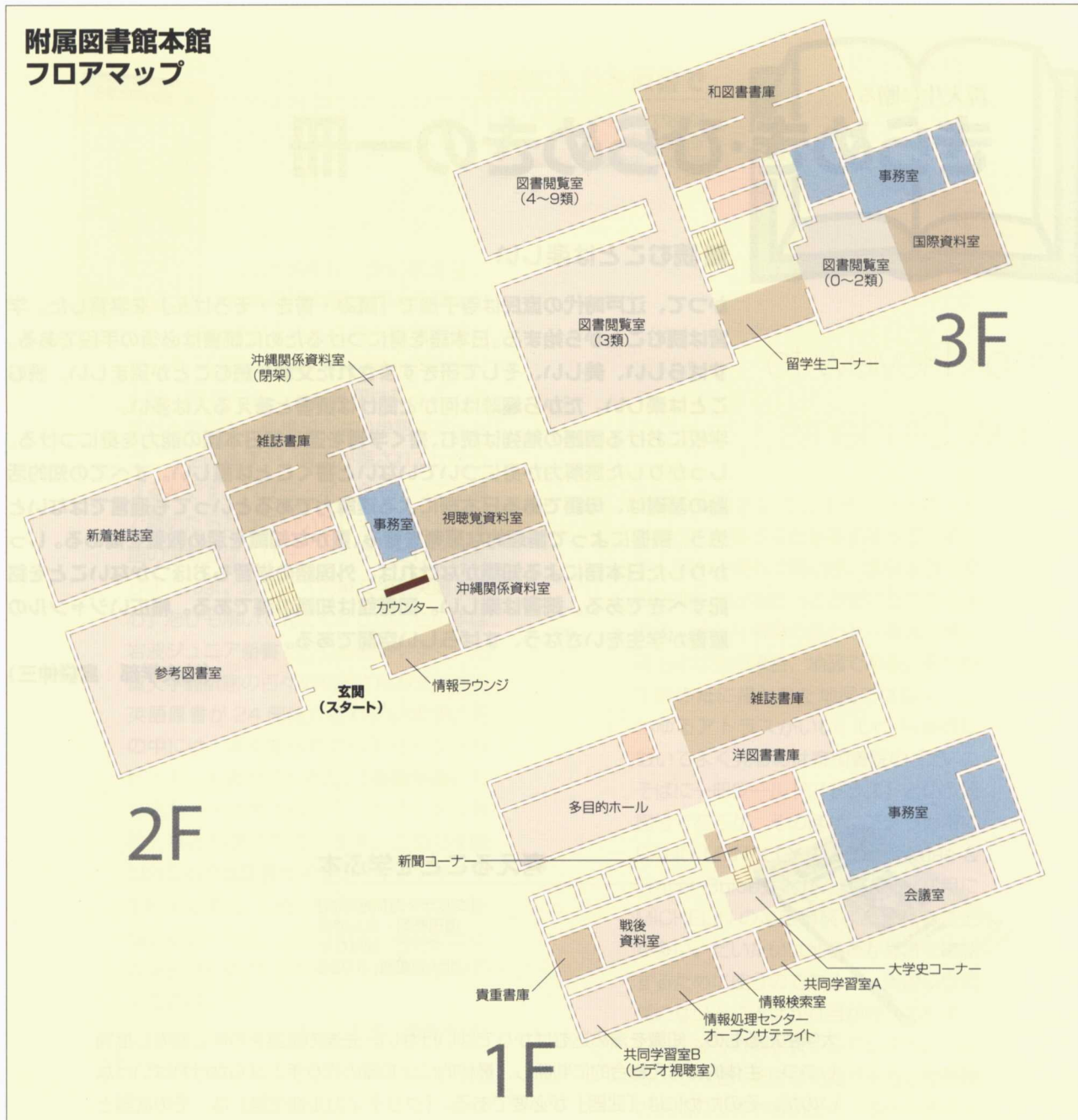
■大学史コーナー

スタートに戻り、今度は階段を降りて1階に下ります。降りる途中の右側には、過去1か月分の新聞（8種）が綴じて置かれていて、自由に見ることができます。

階段を降りきると、そこは琉球大学史展示コーナーです。中央に丸いテーブルがあり、その左に大きなディスプレイがあります。そこでは、琉球大学創立15周年のときに製作された、琉球大学の歴史に関する記録ビデオが常時流れています。開学して間もない頃の、学生たちの目の輝き、勉強への情熱を見てください。丸いテーブルを通り過ぎた突き当たりの壁には、附属図書館の歴史に関するパネルが掛けられています。初代学長、志喜屋孝信氏の退官を機に、その業績を記念するため新図書館ビルの建設を計画し、建設費を集めるため宝くじを発売したこと、1955年に完成した、当時としては最大の5階建ての図書館ビルは、翌年、火事で4階、5階部分を焼失してしまったことなど、この図書館のめずらしい歴史を壁のパネルで見ることができます。

右に曲がると、情報検索室（15台のパソコンを配置）があります。そこで、この図書館の本の目録検索、全国の大学図書館の目録検索、雑誌や論文の検索などができます。続いて、総合情報センターのオープンサテライト（22台のパソコンを配置）が並んでいます（ここのパソコンを利用するには、「ユーザーID」と「パスワード」の取得が必要です）。その次にはビデオ視聴室があり、そこでは、毎週水曜日に映画の上映会が行われます（毎月、上映する映画のタイトルは図書館前の掲示板に貼り出されます。図書館のホームページでも見ることができ

附属図書館本館 フロアマップ



ます)。

階段を降りたところで右にUの字にターンすると、多目的ホールがあります。そこは講演会を開いたり、図書を集めて作業をしたりするのに使われています。

これで図書館をざっと見て回りました（実はこの他にも、雑誌書庫、洋図書館、閉架式の沖縄関係資料室、貴重書庫などがあります）。

図書館は、通常、月～金は朝8時半から夜10時まで、土・日も午後1時から、夜8時まで開いています。

君も、3階奥の閲覧室で静かに読書をして知的な充実感を味わい、1階に降りて、琉球大学や附属図書館の歴史を知り、後で友人に話して聞かせたりしてみようではないか。

- 1) バーナード・ショーが言った皮肉。
- 2) 琉球大学が千原キャンパスに移転した後も、首里キャンパスのときと同様に、附属図書館の呼称を「志喜屋記念図書館」とすることが、1985年9月の評議会で決定された。
- 3) たとえば、吉川幸次郎「論語 上」（朝日新聞社、1965）189ページ。

（まえはら ひろし：教育学部教授・数学）



Book Review to New Students

■ 読むことは楽しい

かつて、江戸時代の庶民は寺子屋で「読み・書き・そろばん」を学習した。学習は読むことから始まる。日本語を身につけるために読書は必須の手段である。すばらしい、美しい、そして研ぎすまされた文章を読むことが望ましい。読むことは楽しい。だから趣味は何かと聞けば読書と答える人は多い。学校における国語の勉強は読む、書く学習を通して日本語の能力を身につける。しっかりした読解力が身につけていないと書くことは難しい。すべての知的活動の基礎は、母語である日本語による理解力であるといっても過言ではないと思う。読書によって論理的な思考を育み、豊かな知識を深め教養を高める。しっかりした日本語による知識がなければ、外国語の学習もおぼつかないことを銘記すべきである。読書は楽しい。図書館は知識の森である。幅広いジャンルの蔵書が学生をいざなう、すばらしい空間である。

(法文学部 島袋伸三)



考えることを学ぶ本

『クリティカル進化論』
道田泰司・宮元博章
マンガ：秋月りす
北大路書房、1999

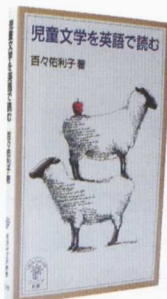
大学生たるもの、知識を溜め込むばかりではいけない。先達の議論を吟味し熟考し批判しつつ、主体的に考え総合的に判断し、最終的には知識の作り手とならなければいけないのだ。そのためには「武器」が必要である。『クリティカル進化論』は、その武器となりうる本である。

本書は、論理学や心理学をベースにした「考え方」についての本である。適切に推論し、自分の見方の偏りに気づくにはどうしたらいいかについて書かれている。難しそうに聞こえるかもしれないが大丈夫。本書では、4コママンガを素材としてふだんの私たちの考え方の特徴が浮き彫りにされ、そこから学ぶことができるようになっているからだ。ここで手に入れた武器は、一生役に立つ道具となるはずである。本書だけでなく、そのような武器を手に入れる場として大学や大学図書館を活用してほしい。

(教育学部 道田泰司)

お気に入りの原書で

『児童文学を英語で読む』
百々佑利子
岩波書店, 1998



「英語が楽しく身に付かないかなあ」と思っている新入生のみなさん！ こどもの頃に読んだ「あのはなし」を原書で読んでみませんか。絵本だって子ども向けだって、あなどるなかれ。結構知らない単語があったり、人生の奥深〜い真実が隠されていたりするんです。ハリー・ポッターだって原書で読めたらカッコいいでしょ？ でも、英語の児童書はハリー・ポッターだけではありませんよ。まずは『児童文学を英語で読む』をひも解いてみてください。この本は岩波ジュニア新書でとても読みやすく、児童文学翻訳家の百々佑利子さんおすすめの英語原書が24冊紹介されています。その中には、よく知られているピーターラビット、くまのプーさん、『指輪物語』で有名なトルキンによる『ホビットの冒険』などが含まれています。この24冊以外にも今は原書がインターネットですぐ手に入る時代。「他にも何か読み物ないかな」と思ったら、ぜひ <http://www.lib.uryukyu.ac.jp/tt/mtoya/> をのぞいてみてください。

(法文学部 東矢光代)

最近知りたいことはインターネットで調べてしまうことが多くなってしまった。確かに便利で早いですが、昔のように書籍を開くこともけっこう役に立つことがある。そんな書籍の魅力を一番強く感じるものは私の場合、地図である。それも1枚の紙に描かれた地図ではなく、いわゆるアトラスがいい。いつも身近においてよく見るのは帝国書院の『TVのそばに一冊ワールドアトラス』という地図帳であるが、そのほかにアメリカ用にRAND McNALLYの『Road Atlas & Travel Guide』とか、ヨーロッパ用にMICHELINの道路地図などを見ることが多い。だいたい地名とか場所を確認するために使うのであるが、実際には関係のないところばかり目が行ってしまって、かなり時間を費やしてしまう。しかし、その度に新鮮な発見がある。短時間の未知の世界や思い出の土地への旅行を楽しむ。これが地図の魅力である。おかげで外国ではいつも地図を買ってしまう癖がついてしまった。

(工学部 堤 純一郎)

『TVのそばに一冊ワールドアトラス』
帝国書院編集部
帝国書院, 2001

地図を読む



私たちは日々、かなりのエネルギーを使って生活している。この莫大なエネルギーを今後、どのように確保していくのか、それとも消費量を減らせるのか？ 21世紀を迎えてなお大きな問題である。

確保に関しては、原子力発電が考えられ、日本でもこの40年間、稼働してきている。しかし、著者は「脱原発」をめざしている。原発は「エネルギー問題」というより、「放射能問題」と、とらえているからである。

著者は、原発に対する各国の考え方を通して「終わりが始まった原子力の時代」と結論している。例えば日本におけるエネルギー消費量を分析し、当面1980年代前半の水準まで下げることができれば、直ちに原発を止めることができると指摘している。将来は脱石油も考えたい。太陽光、排泄物利用、木質ガス、小水力発電、そしてコ-ジェネレーション・電力自由化に方途を探っている。

石油エネルギーの少ない日本・沖縄では特に、学生諸君に読んでもらいたい1冊である。

(理学部 渡久山章)



考えよう、明日のエネルギー

『脱原発のエネルギー計画』

藤田 祐幸

高文研, 1996

医学生に薦める古い一冊

『城砦』

A. J. クローニン

三笠書房, 1967



50年以上も前からずいぶん長い間、医学生の必読書といわれていた本を紹介しましょう。『城砦』は医師でもあったクローニンの代表作とされるもので、作者の自伝的な趣もある若い医師が成長し成功してゆく道りを描いた作品です。50年以上も前のものですから、医学も医療現場もずいぶん変わってしまっていますが、話の筋は良くできていますし、訳も美しく、その時々主人公の感情に共感できるのではないのでしょうか。現代の若者には単なる医者出世物語と映るのか、何かを感じることができるのか感想を聞いてみたいと思っています。

(医学部 田中龍夫)

Wildlife の楽園を復活させるために・ Hawaii から学ぶ Okinawa の近未来

『ハワイの自然：3000 万年の楽園』
清水善和
古今書院、1998



沖縄 (Okinawa)、琉球 (Ryukyu)、南西諸島……この言葉の響きからあなたはどのような風景を心に描きますか？ エメラルドグリーン美しい海、夏の白い陽ざし、緑潤う「やんばる」の森……珊瑚礁に囲まれた沖縄の島々は、古くは大陸とつながっていました。島の周りには世界一美しい海が広がり、私たちが住むこの島の上には（あなたのすぐ隣にも）「世界でここにしかない生き物」がたくさん棲んでいます。島の歴史の結晶です。

一方、ハワイ諸島は海底火山から吹き出した溶岩でできた島です。島の生い立ちは違いますが、ハワイ諸島にも沖縄の島々と同じくらい、その島にしかない生き物がたくさんいます。本書の裏表紙の記述をお借りすれば、「ハワイの歴史はハワイ本来の生物からなる特異な生態系（自然の楽園）を人間が次々と破壊・改変し、外来種を中心とした人工の生態系（人工の楽園）につくり替えた過程ととらえることができる」とのこと。皆さんがこれから学ぶこの沖縄の島々でも（あなたのすぐ隣でも）まったく同じことが今まさに起こっています。

本書はハワイ諸島の自然を、1) 島の生い立ち、2) 気候、3) 動植物、4) 破壊と改変、そして5) 失われた楽園の回復への試み、に分けて、文系理系を問わず親しめるよう、やさしく解説しています。Okinawa と Hawaii。このふたつの楽園を対比させたとき、ハワイの現状から沖縄の未来像にあなたは何を描きますか？

(農学部 小倉剛)

Information

新入生オリエンテーションのご案内

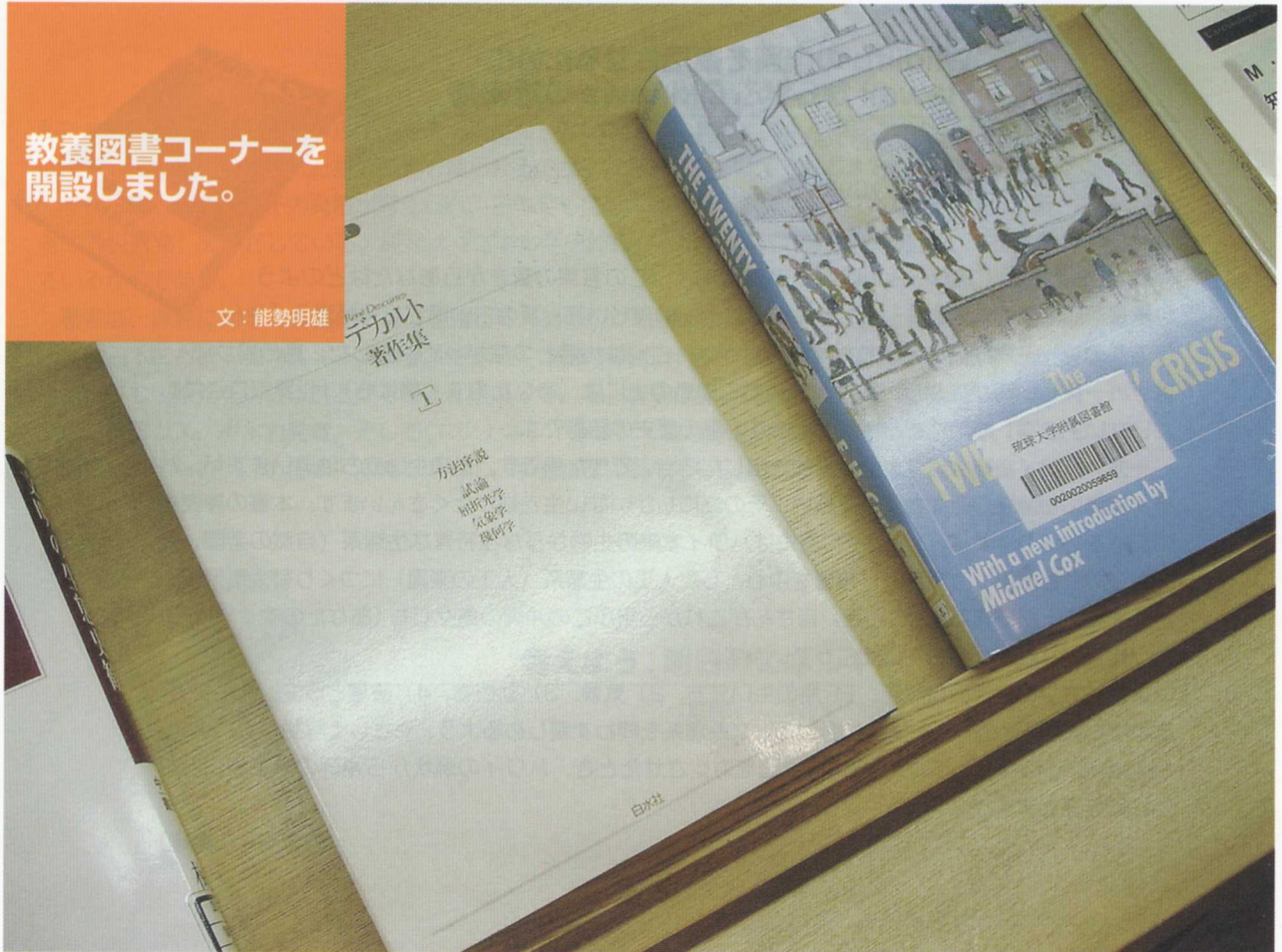
今号の『びぶりお』では「新入生に贈る きらめき・ひらめきの一冊」と題しまして、各学部の先生方に1冊ずつ本のご紹介をしていただきました。いかがでしたでしょうか。それぞれ新しく大学生になられた皆さんの読書生活を深めてくれるきっかけになる一冊です。これらの本は図書館に備えておりますので、ぜひ一度手にとり、ご覧になってみて下さい。

さて、附属図書館では、「新入生のための図書館オリエンテーション」を行います。充実した大学生活を送るためには図書館の活用がキーになります。大学図書館にはどのような資料があり、『びぶりお』で紹介された本など、皆さんが必要な資料を広い図書館の中でどのように見つけたらよいのか、ということをはじめとして、図書館の利用法をガイドいたします。ぜひご参加ください。事前のお申し込みは不要です。ご都合の良い日に下記集合場所にお越し下さい。

開催日： 4月7日(月)～18日(金)の土・日を除く毎日
開催時間： 14:00～15:00
集合場所： 本館1階 多目的ホール
内容： 図書館ツアー、蔵書検索 OPAC、ホームページの利用法

教養図書コーナーを
開設しました。

文：能勢明雄



除幕式テープカット。左から、学長 森田孟進、前附属図書館長 宜保清一。



平成 14 年 10 月 30 日に、本館 2 階情報ラウンジに「教養図書コーナー」を開設しました。

ここでは、学内の教官等から選書された教養図書約 150 冊（本館に 2 冊ずつ、医学部分館に 1 冊ずつ）が、カラフルな書籍の表紙が見え、つつい手に取ってみたいくなるような書籍並びで配架されています。今まで受験勉強などで忙しくて、「読み忘れていた本」や「読みたかった本」なども多く含まれており、多くの学生に読まれ、予約待ちの図書もある状況です。

今後、この教養図書をできるだけ多くの学生の読んでいただけるよう、利用促進活動（読書コンクールなど）や利用状況に応じて図書の追加もしていく予定です。

この教養図書コーナーの開設当時に尽力いただきました、前附属図書館長宜保清一の教養図書コーナーに対する思いを、次頁に紹介させていただきます。

同時に、琉球大学・図書館のあゆみ（米国民政府の管轄期、琉球政府立大学期、国立大学期）を、首里城趾の開学当時からわかりやすく写真展示した「大学史コーナー」も本館 1 階に開設しました。こちらも合わせてご観覧下さい。

（のせ あきお：情報サービス課長）

あなたにすすめる教養図書

宜保 清一

学生の皆さんは、作家の司馬遼太郎をご存じでしょう。『龍馬がゆく』『坂の上の雲』『街道をゆくシリーズ』を読まれた方も多いかと思います。司馬遼太郎は、「人間と人生」について書くに値するもののみを書き続け、歴史小説、エッセー、ルポルタージュなどの作品群を残しました。エッセー『21世紀に生きる君たちへ』の中で、「歴史から学んだ人間の生き方の基本」として自己確立の重要性を強調し、「頼もしい人」になって欲しいと語りかけています。自分に厳しく、相手には優しく、他人の痛みを感じるという根っこの感情が、自己の中にしっかり根づいていれば、周りの人々だけでなく、他民族へのいたわりという気持ちも湧き出てきます。人の心がわかる心は「教養のある心」です。

「教養と品位ある人材養成」は、琉球大学の教育方針の一つでもあります。皆さんが教養を身につけて人間形成を図るためには、良い本を多く読むことが一番です。附属図書館では、「教養と品位ある人材養成」を支援するために、学生の自学自習の場としての機能を高めるとともに、教養図書や外国図書の充実を進めています。今回「情報ラウンジ」に「教養図書」コーナーを開設しました。カラフルな背表紙の教養図書は、見ても愉しく、魅力ある雰囲気醸し出しています。また本企画が学生にとってよりおもしろく・魅力的なものになるように、「教養と読書と私（案）」のテーマで懸賞募集も考えています。もちろん、原稿の中味は単なる感想文ではなく、数冊程度の読後の成果が網羅されていることが前提となりましょう。

本企画は学生の教養教育を重視する学長のリーダーシップのもとで推進されたものです。「教養図書」の選定は、まず各学部学科の教官から図書を推薦していただき、附属図書館で補足したものについて、学長・副学長・学部長・教育センター長に評価と追加をお願いし、最後に図書館長が整理しました。選書・整理に際してのキーワードは、人生、自分、思索、歴史、古典、国際、日本、沖縄、戦争、平和、学問、科学、環境などです。

附属図書館には莫大な蔵書があり、真の教養人になるための教養図書、専門図書など、学生支援には有り余るほどです。多くの費用をかけて学生を「蔵書の森」に誘う本企画は、教養豊かな琉球大学の学生・卒業生を一人

でも多く輩出したい、との大学の教育方針を具現化したものです。今回の選書に対して、種々異論があることは承知しています。そもそも「教養とは」、「真の教養人とは」、教養の定義は難しい。中央教育審議会から平成14年2月に出された『新しい時代における教養教育の在り方について（答申）』の中で、教養を次のように定義しています。

「教養とは、個人が社会と関わり、経験を積み、体系的な知識や知恵を獲得する過程で身に付ける、ものの見方、考え方、価値観の総体といえることができる。教養は、人類の歴史の中で、それぞれの文化的な背景を色濃く反映させながら積み重ねられ、後世へと伝えられてきた。人には、その成長段階ごとに身に付けなければならない教養がある。それらを、社会での様々な経験、自己との対話等を通じて一つ一つ身に付け、それぞれの内面に自分の生きる座標軸、すなわち行動の基準とそれを支える価値観を構築していかなければならない。教養は、知的な側面のみならず、規範意識と倫理性、感性と美意識、主体的に行動する力、バランス感覚、体力や精神力などを含めた総合的な概念としてとらえるべきものである」

「教養図書」は予算面だけでなく、利用しやすくする意味でも数を限定しました。学生に読んで欲しい多くの図書がありますので、今回は利用者の意見も得て見直しを行い、一層の充実に向け整備されることとなります。より多くの学生が「教養図書」に親しみ、附属図書館の蔵書を十分に活用され、真の教養人、良き社会人になることを、切に願っております。

(ぎぼ せいいち：農学部教授・前附属図書館長)

2002年度貴重書展 「史料が語る琉球」

2002年度貴重書展「史料が語る琉球」を、2003年2月4日から9日の6日間、那覇市リウボウ7階リウボウホールにて開催いたしました。昨年度に引き続き、2度目の

大学外での貴重書展となりました。短い期間にも関わらず、たくさんの方々にご来館いただき、誠にありがとうございました。

今回は、本学法文学部教授池宮正治氏並びに教育学部助教授豊見山和行氏にご監修いただき、附属図書館の所蔵する貴重な原本の中から、9つのテーマに沿って、琉球の歴史、文化に関わる多彩な史料約100点を展示いたしました。

「1. 仲原善忠と久米島関係史料」では、沖縄学研究者として名高い仲原善忠の研究資料の中から『久米仲里旧記』など久米島関係史料を中心に、「2. 琉球文学—琉歌・和歌・漢詩」では、県指定重要文化財である『浦添家本伊勢物語』のほか、『琉歌百控』など琉歌を中心に琉球の詩歌集を、「3. 琉球芸能—組踊・三線音楽」では、『小祿殿内本組踊』『屋嘉比工四』など組踊集・工四を、「4. 琉球風俗」では、『琉球風俗絵巻』など、当時の琉球の風俗を描いた珍しい絵画・写真資料を、「5. 書跡」では、近世琉球第一の書家である鄭嘉訓の書をはじめ、八重山の頭職を勤めた宮良家に伝わる書跡を、「6. 琉球版」では、蔡温の編纂した『御教條』など近世琉球に刊行された版本を、「7. 琉球王府関係文書」では、『薩摩藩宛て国王・三司官の書状』を含む近世琉球の政治史を研究する上で欠かすことのできない貴重な史料の数々を、「8. 江戸上り」では、異国風の衣装に身を包みにぎやかに楽器を演奏しながら行列していく江戸上りの様子を描いた絵図などを、「9. 沖縄関係電子化資料」では、パソコンを設置し、『琉球語音声データベース』『伊波普猷文庫画像データベース』など図書館がインターネットを通して提供している電子化資料をご紹介します。また、参考出品として、「琉球大学・附属図書館五十年の歩み」と題し、当時の写真と共に琉球大学及び附属図書館の歴史をご紹介しますコーナーも設けました。

貴重書展の詳しい内容は、附属図書館 Web サイトに掲載しておりますので、ぜひご覧下さい。

(展示委員会)



開会式テープカット。左から、琉球大学事務局長河野憲司、附属図書館長前原潤、(株)リウボウインダストリー代表取締役社長比嘉正輝。



展示会カタログ

2003年の 電子ジャーナル サービス

新たに約 1200 誌を提供開始

図書館では電子ジャーナルを積極的に導入していますが、今年は契約しているコンソーシアムが更に増え、「Kluwer 社の全電子ジャーナル」と「Nature」、「Blackwell 社の STM (理工生命科学系)」、「IEEE」がフルテキスト閲覧可能になりました。これに伴い、2003 年度当初でコンソーシアム契約により電子ジャーナルの全点を閲覧できる出版社は、「Blackwell (Synergy)」650 誌、「IEEE」20 誌、「Kluwer」780 誌、「Oxford」180 誌、「Springer (Link)」440 誌、「Wiley (Inter Science)」420 誌の 6 システムとなりました。Elsevier 社の「SD (Science Direct)」は契約の関係で一部見る事ができないものもありますが、990 誌のフルテキストが閲覧可能です。「Nature」は本誌と Research 誌の 9 誌です。

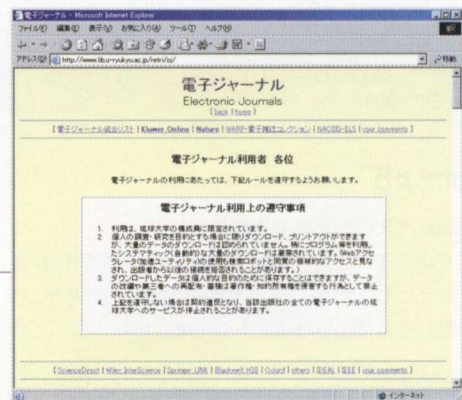
この他にもプリント版を購入すると電子版も見ることができるジャーナルもあり、それらを全て含めたアルファベット順の電子ジャーナル統合リストも用意さ

れています。

他に日本の学協会が発行する学術雑誌を閲覧できる国立情報学研究所「NACSIS-ELS」も利用できます。また、国立国会図書館「WARP」からも 400 誌以上の国内の電子ジャーナルを閲覧できます。

これらの電子ジャーナルへは図書館 Web サイトの電子ジャーナルのページからアクセスできます。このページから利用マニュアルなども見ることができますので、利用の際にはご参照ください。

(電子情報係)



<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/retri/oj/index.html>

図書館システムの 更新について

蔵書検索 OPAC にも新機能

平成 15 年 3 月に図書館システムが更新されました。今回の更新は、附属図書館・総合情報処理センター・大学教育センターの 3 システムを一括して契約・調達する方式で行われ、入札の結果、富士通株式会社花落し、図書館業務パッケージは株式会社 NTT データの NALIS が採用されました。

新システムでは、ハードウェア・ソフトウェアともに、機能強化を図りました。ハードウェアでは、業務用クライアントパソコンの台数を、更新前の 20 台から 32 台に増強、これにより図書館職員一人一台のパソコン環境が実現することとなりました。ソフトウェアについては、図書館利用者と図書館システムの接点ともいえる「蔵書検索 OPAC」が、利用者から目に

見える形で改善・強化されます。特に、多言語対応は、今回の更新の目玉ともいえる部分です。そのほか、携帯電話からの蔵書検索、建物平面図による配架場所表示などの機能も新たに追加される予定です。

なお、これら、多言語対応 OPAC や携帯電話からの蔵書検索などについて具体的な使用方法は、附属図書館 Web サイト (<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) に逐次掲載する予定です。

(システム管理係)

お知らせ

開館カレンダー(2003年 本館・医分館)

4月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

5月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

開館時間：【黒】8:30～22:00 【緑】13:00～20:00 (分館は13:00～18:00) 【青】8:30～17:00 【赤】休館
休館日：開学記念日(5/22)

本館だより

<前原潤教授が附属図書館長に就任>

平成14年10月1日、農学部生物生産学科教授 宜保清一に代わり、教育学部数学教育教授 前原潤が、第23代附属図書館長に就任いたしました。

<第239回図書館運営委員会録>

平成14年12月17日

○協議事項

1. 「琉球大学と沖縄県教育委員会に係る高大連携」に基づく高校生の図書館利用について

○報告事項

1. 電子図書館機能検討委員会報告
2. 平成15年度版電子ジャーナルについて
3. 電子ジャーナル不正利用について
4. 平成14年度ボランティア証交付について
5. 情報ラウンジ、大学史コーナーのオープンについて
6. 平成14年度貴重書展計画について
7. 医学部分館増築WGについて
8. 沖縄関係文献資料購入費について
9. 大型コレクションの採択について
10. 会議報告

■図書館報『びぶりお』の年間発行回数の変更について

これまで年4回発行していましたが、2002年度より、年3回(4月1日、8月1日、12月1日)に発行回数を変更することになりました。今後もより一層の充実を図っていきたく思いますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。
(びぶりお編集委員会)

医分館だより

<雑誌の配架場所の変更について>

医学部分館の書架の狭隘化により、一部の和雑誌を本館へ移動しました。これにともない、雑誌の配架場所が下記のとおり変更になりました。

1F 洋雑誌	1994年以降
和雑誌	1996年以降
2F 洋雑誌(集密書架)	1993年以前
和雑誌	1995年以前

<第49回医学部分館運営委員会録>

平成14年10月21日

○協議事項

1. 医学部分館増築WGの立ち上げについて

○報告事項

1. 和雑誌の本館移動及び図書の除籍について
2. 平成14年度九州地区医学図書館協議会総会及び平成15年度九州地区医学図書館協議会総会当番校について
3. 教養図書について
4. 2003年雑誌の新規・中止調査の結果について
5. 外国雑誌問題検討小委員会について
6. NACSIS-IR & NACSIS-ELSの機関別定額利用について
7. 平成16年度概算要求(24時間開館)について